

JEI エシカル・サミット & ウィーク

開催趣意書

一般社団法人 日本エシカル推進協議会
JEI エシカル・サミット & ウィーク実行委員会

JEI エシカル・サミット & ウィーク 趣意書

時代は“EX (Ethical Transformation)”

～ “真”の豊かさを未来へ ～

パンデミックが私たちを襲った 2020 年。今回の新型コロナウイルスに限らず、近年度重なる深刻なウィルス蔓延の要因は、森林をはじめとする自然の破壊にあると国連環境計画 (UNEP) は指摘しています。牛肉、大豆、パーム油、木材・紙等々 -- 快適な生活を送ろうと私たち人間が自然を破壊してきたことが野生生物との接触を増やし、パンデミックを呼び込んできたのです。これまで無分別に過ごしてきたツケを今私たちは払わされていると言えるでしょう。

コロナ禍にともなうロックダウンや経済活動の縮小で、2020 年の CO2 排出量は全世界で 8%ほど減少すると見込まれています。しかし、それはまさに「焼け石に水」程度のものに過ぎず、大型タンカーがすぐには止まれないように、大気中の CO2 濃度の上昇傾向を抑えるまでに至っていないと世界気象機関 (WMO) は警告しています。「気候危機」はいよいよ深まり、後戻りができないレベルにまで近づいているのです。

コロナウィルスはまた、格差問題の深刻さを浮き彫りにしました。リモートワークが難しい仕事に多く就いているアメリカのマイノリティ (アフリカ系、ラテン系、先住民族) の感染死亡率は、白人の 3 倍以上に達すると報告されています。世界銀行は、2021 年までに世界全体で 1 億 1,000 万人～1 億 5,000 万人が新たに極度の貧困に陥ると予測し、2030 年までに極度の貧困を撲滅するという SDGs の達成に赤信号が灯っています。その一方で、株価はアメリカでは史上最高値、日本ではバブル崩壊後の最高値を記録し、スイスの UBS 銀行によると世界の億万長者 2000 人は、2020 年 4 月からの 3 か月間だけで資産を 28%も増やしたと言います。

こうした地球規模の環境、社会の危機的状況から抜け出すべく、世界では「Build Back Better- よりよい社会へと築き直す」必要が叫ばれています。どのような社会が「よりよい社会」なのか -- 人によって、国によって捉え方に違いがあるかもしれませんが、私たちは環境と社会に配慮した「よりエシカルな社会」への築き直しが最も求められているのではないかと考えます。

コロナ禍を受けて、日本では政府が「新 IT 戦略」を打ち出し、企業ともども DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進に乗り出しました。DXにおいても、いわゆる情報弱者を生まないようにするなどのエシカルな配慮が必要なのは言うまでもありませんが、私たちはそれに加えて、社会全体をエシカルなものへと変革する「EX（エシカル・トランスフォーメーション）」を提唱したいと思います。政府、企業、一般市民／国民が、成長第一、効率第一、快適追求第一から脱却して、環境と社会に責任を負いつつ真の豊かさを実現する EX の実現こそが時代の要請だと考えるからです。

エシカルな社会の実現は、将来世代に対する私たちの責任でもあります。日本の未来を背負うその将来世代を抜きにしてエシカルな社会像を描くことはできないでしょう。前例やしがらみ、過去の成功体験等に縛られず、柔軟な発想のもと、エシカルな変革にチャレンジする若い世代へとバトンを渡す時が来ています。

「禍(わざわい)を転じて福と為す」という言葉があります。まさに今回のコロナ「禍」を転機として、すべての人に福をもたらすエシカルな社会を築き上げましょう。若い世代の思いを核に、あらゆる世代が協働して「EX：エシカルな変革」を構想する 2021 年エシカル・サミット & ウィークに是非奮ってご参加ください。

2020 年 12 月吉日

一般社団法人 日本エシカル推進協議会
JEI エシカル・サミット & ウィーク実行委員会